

松代文化施設 民間活力導入可能性調査

目的

松代の文化施設において、公民連携した施設の管理運営を促進するため、民間事業者の創意やノウハウを取り入れて効率的・効果的なサービスの提供が可能か、また対象事業がPFI（コンセッション）事業として成立するかどうかを判断するために「導入可能性調査」を実施するもの
12,000千円（文化芸術振興費補助金9,120千円「文化施設サービス刷新・活動活性化等運営改善推進事業」）

(1) 事業の流れ

STEP.1

事業概要・施設概要等の
前提条件整理

STEP.2

事業手法・スキーム
の検討

STEP.3

民間事業者への意向調査
(市場サウンディング調査)

STEP.4

財政負担軽減効果
の検証

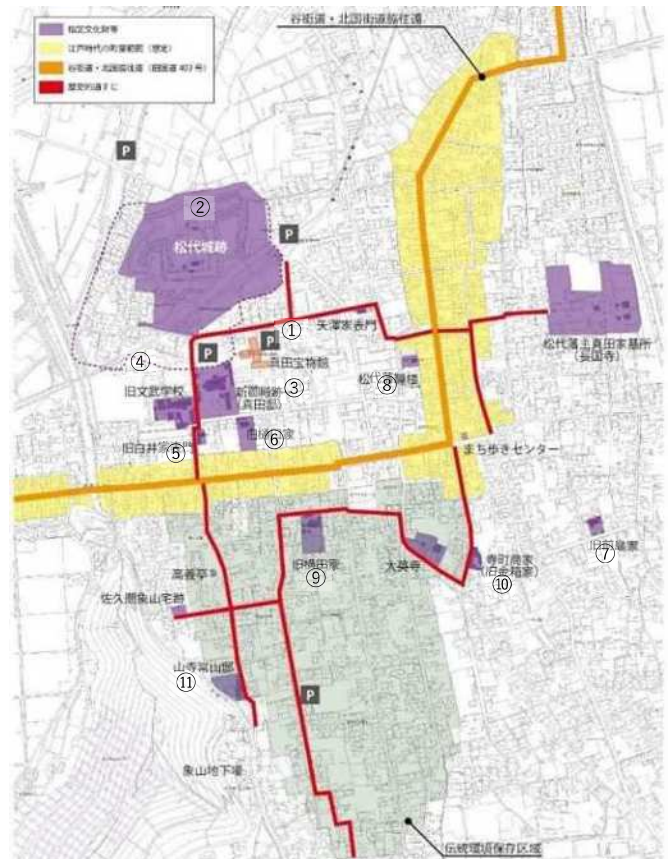
総合
評価

(2) 令和7年度以降のスケジュール（案）

	年度	令和7年度（2025）												R 8 (2026)	R 9 (2027)			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
行政	国庫補助金・交付決定	★														実施方針の決定（条例改正など）	募集・審査・協定締結	
	事務手続き・庁内検討 (調査委託者選定等)						契約	庁内プロジェクトチーム等で情報共有										
導入可能性調査	前提条件整理															総合評価	公表	
	事業スキーム検討																	
	市場サウンディング(※)																	
	実施方針の検討																	
民間事業者																		
地元住民・関係団体																		

※サウンディング調査では、旅行業者・観光事業者・広告代理店・銀行等の民間事業者を想定

No	施設	名称	文化財種別	有料無料	備考
①		真田宝物館	(博物館)	有料	
②		松代城跡	国史跡	無料	都市公園
③		真田邸 (新御殿跡)	国史跡	有料	
④		文武学校	国史跡	有料	
⑤		旧白井家表門	市指定	無料	
⑥		旧樋口家住宅	市指定	無料	一部管理委託
⑦		旧前島家住宅	県宝	無料	一部管理委託
⑧		旧松代藩鐘楼	市指定	無料	
⑨		旧横田家住宅	国重文	有料	
⑩		寺町商家	市指定	無料	指定管理 (R5-R9)
⑪		山寺常山邸	国登録	無料	一部管理委託



松代文化施設 位置図

国登録有形文化財物件について

1 登録有形文化財（建造物）抹消に長野市関係の建造物 1 箇所 3 件が文部科学省より告示された。

登録抹消告示された物件

【令和 7 年 3 月 1 日告示】

登録有形文化財 齋藤家住宅離れ、近土蔵、米蔵及び質蔵 【解体】



齋藤家住宅離れ 北からみる



近土蔵 西からみる



米蔵及び質蔵 北西から

所在地：長野県長野市松代町 近土蔵、米蔵及び質蔵

長野県長野市松代町 離れ

建築年代及び特徴

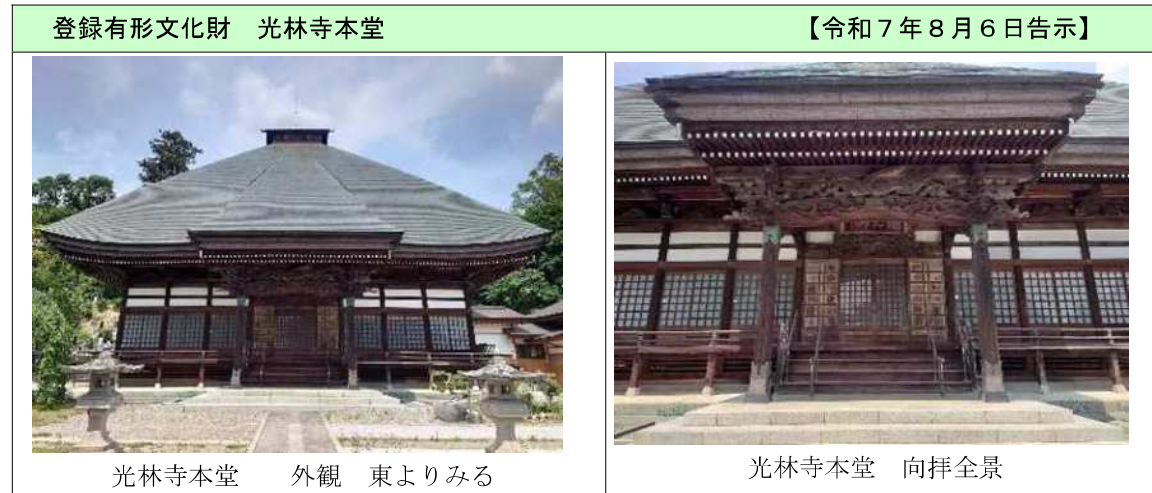
齋藤家住宅離れ：明治中期 街路に北面して建つ木造二階建、切妻造、棧瓦葺で正面二階に瓦葺庇、一階に金属板葺庇がつく。外壁は大壁造の白漆喰塗仕上げで、土戸と戸袋も白漆喰塗とし、内部を座敷とする。明治 24 年の松代大火後の建設と伝えられ、地域の歴史を示す建物。

近土蔵：江戸後期 敷地の中央に西を正面にして建つ桁行二間半、梁間二間規模の土蔵造二階建。

屋根は切妻造、棧瓦葺、平入で、正面に瓦葺庇がつく。外壁は白漆喰仕上げで、腰部と庇の柱下部を黒漆喰塗。

米蔵及び質蔵：江戸後期 近土蔵の南に北を正面にして建つ桁行四間半、梁間二間規模の土蔵造二階建。東側が米蔵、西側が質蔵。

2 登録有形文化財（建造物）に長野市関係の建造物3件が文部科学省より答申された。



所在地：長野県長野市篠ノ井小松原字境内2329番地

建築年代：寛政12年(1800) / 昭和53年(1978)改修

構造等：光林寺は、浄土宗知恩院派の寺院で、御本尊は、木造阿弥陀如来坐像である。現本堂は、棟札から寛政12年(1800)に上棟されたことがわかる。この時の住持は18代學順大和尚で、大工棟梁は越後国頸城郡市振村の片桐利七であった。

本堂は、間口柱間七間（間口寸法17.271m）、奥行柱間五間（奥行寸法13.968m）に位牌堂（奥行寸法3.485m）、寄棟造り銅板葺、流造りで3間の向拝を付ける。間取りは、中央外陣間口7間半、奥行3間の左右に1間の外陣、手前に1間半の外陣を廻す。内陣は上段で、中央は来迎柱を左右の内陣筋より半間前に出し、須弥壇を設けて後堂部分を広くして、奥に収納と手前左右には法然上人坐像と善導大師坐像が安置されている。





善敬寺本堂 外観 西よりみる



善敬寺本堂 外陣を東より望む

所在地：長野県長野市吉田三丁目968番地

建築年代：元文元年(1736)/明治37年(1904)改修/令和3年(2021)改修

構造等：善敬寺（ぜんきょうじ）は、長野市吉田中央字町東にあり、浄土真宗東本願寺派の寺院。現在の本堂は、棟札から、享保17年(1732)4月に手斧始が行われ、元文元年(1736)6月に上棟されたことがわかる。このときの住持は浄慶で、大工棟梁は栗田村（長野市栗田）の竹村久右衛門。

内外陣廻りに円柱を多用し外陣正側に広縁と落縁を付す。外陣中央間の鏡天井に描く龍が目を惹く規模雄大な本堂。

明治37年(1904)に縁周りの改修。

昭和57年(1982)に屋根の葺き替え、縁周りの改修。



1 市天然記念物のき損事例 【南浦のイチイ】

き損前 R6.10.2	き損後 R7.4.10	R7.7.30
<p>・樹木医診断</p>  <p>・右側の枯れが進んでいるが、隣の建物（社）の影響が考えられる。</p> <p>・樹勢回復にも使用する不定根が幹から出ている。この状態を維持することが良い。</p>	  <p>・雪の重みにより西側に倒れた。根がえりした状態。</p>	  <p>・新しい芽が出始めている。</p>

所在地：長野市鬼無里日影（南浦） 所有者：個人

基本情報：推定樹齢約400年 樹高20m 幹囲5.0m

経過：R7.1.20 雪かきに入った地域の方が、指定木が根こそぎひっくり返った状態を確認。

R7.4.9 所有者様他地域の方々と鬼無里支所職員と現状を確認。

R7.7.30 渡辺審議委員、樹木医による現状確認。

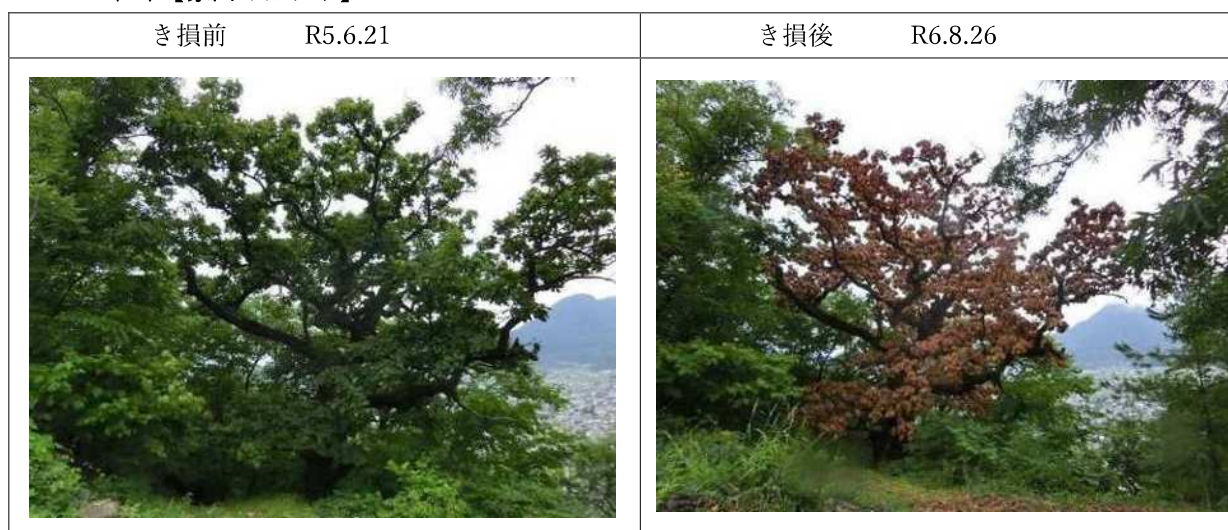
【有澤樹木医】

- ▶ 回復の手段として、重機を入れられれば生きている部分をのこして剪定し、起こして回復を待つという方法もあるが、大町市では倒した状態のまま経過観察している例もある。
- ▶ まだつながっている根に対しては覆土し、むき出しになっている根に対してもむしるや藁をかぶせて乾燥を防ぐ等の緊急の措置を取るべきである。



2 県の天然記念物のき損事例

(1)【象山のカシワ】



所在地：長野市松代町西条 541-イ号付近 所有者：長野市

基本情報：推定樹齢約 400年 樹高 12.5m 幹囲 4.3m

経過：①R6.8.20 代地区住自協の袖山顧問から指定木が枯れているとの情報が入る。

②R6.9.5 県文化振興課主事及び市公園緑地課、文化財課職員が立ち会い、指定木の現状を確認。

③R6.10.2 樹木医が診断。カシノナガキクイムシによる虫害。根元に同じ遺伝子を持つひこばえが出ている。カシワの萌芽枝は移植が難しく、そのまま残すのが現実的。

④R7.1.14 市から県へき損届提出。

⑤R7.5.22 県文化振興課専門員から R7.3.7 に開催した県審議会にて、カシワの話題が出た。結論としては、ただちに指定解除するのではなく2～3年経過観察を行いたいとの連絡がきた。



(2)【つつじ山のアカシデ】



所在地：長野市豊野町川谷 3 8 3 6 - 3 所有者：長野市

基本情報：推定樹齢約 3 5 0 年 樹高 12m 幹囲 4.24m

経過：H29 北に伸びる大枝が折れる。

H30 谷川の枝が折れる。樹木医による診断「①大枝がいつ折れるかわからず危険な状態にあること。②大枝3本のうち2本が枯死の状態であること。③有機肥料を施肥した効果で、残っている枝は元気になったが、木全体として見ると人間でいえば「末期ガン」の状態にあり、再生はあり得ない。」

※以降、年3~4回のパトロール実施。安全確認、根周りの整備、枯れ枝の除去等を行う。

★本幹の倒壊

R7.7.16 公園緑地課職員がつつじ山を現地確認した際に、アカシデが本幹腐食部分で折れ、山側に倒れているのを確認。

7.17 公園緑地課によって、アカシデ附近園路を通行止め、危険喚起を処置。

公園緑地課より、文化財課へアカシデ倒壊の連絡があった。文化財課より、県文化振興課文化財専門員へ倒壊の連絡

7.18 県文化振興課文化財専門員と文化財課で現地を確認し、今後について協議。樹木医診断の実施及び折損箇所の処置等対応を進める。

8.12 公園緑地課と樹木医による現状の確認。





外観 上空よりみる



善光寺雲上殿本殿 南よりみる

所在地：長野市箱清水三丁目1775

建築年代：昭和24（1949）年・昭和63（1988）年頃・平成24年（2012）年改修

構造等：善光寺の中軸線の北方に位置し大峰山の南麓に建つ納骨堂。

設計は沖津清。中央に鉄骨鉄筋コンクリート造鉄板葺の多宝塔を配し、東西に鉄筋コンクリート造二階建の翼堂を延ばした独創的な形式。

コンクリートで寺院建築の細部意匠まで巧みに表現した大規模納骨堂。

昭和62,3年頃に二、三階を改造し、平成24年には本殿の耐震補強工事を行っている。



3 長野市内の国登録有形文化財件数

種別	今回告示・答申件数		合計（現在登録件数と 答申件数との合計）
	新登録	抹消	
登録有形文化財（建造物）	3件	3件	142件（64箇所）

4 令和7年度事業の概要

主な項目	内 容
調査の実施	・整備の基礎資料として、発掘調査(約 400㎡)、史料調査を実施。
整備専門家会議の開催	・史跡の保存活用や整備についての指導・助言を得る。 [構成: 考古学 2 名、建築史 2 名、歴史 1 名、造園 1 名、地元代表 1 名]
保存整備工事・設計監理の実施	・二の丸遺構保存整備設計/工事【国補】(R6:設計、R7-8:工事) ・外周園路整備工事【国補】(R4-7) ・石垣測量調査・石垣カルテ作成【国補】(R4-7) ・環境整備工事(木柵改修、境界柵新設等)【市単】(R6-)
その他	・史跡周辺環境整備方針(道路・駐車場等)について、地元と連絡調整

5 事業概要図



6 事業進捗状況



発掘調査見学会(R6.11.23)



外周園路整備状況(R7.3)



二の丸遺構外整備設計(南西部)

史跡大室古墳群 保存整備事業について

(令和7年8月1日現在)

1 令和7年度の事業計画

- ・保存整備事業（第Ⅱ期 遺構復元整備ゾーン）
古墳保存修理工事：155号墳【国補】
- ・アクセス道路整備事業
土質調査業務委託、修正設計業務委託
- ・管理事業
芝生等環境整備 4月～11月・3月実施、古墳環境整備 4月～11月、3月に月2日実施
- ・公開活用事業
大室古墳群まつり（地元実行委員会主催 10月19日 日曜日）への協力
社会見学・出前講座などの開催（随時）、企画行事への職員派遣

2 155号墳の保存整備計画

【整備方針】残存する下部構造は非常によく残っているが、失われた上部構造に関する復元根拠に乏しいため、残存部分を整えて、一般公開する。

【整備内容】

- ・墳丘上の樹木の伐採
- ・発掘調査トレンチの土嚢撤去・埋め戻し
- ・見学用園路の整備
埋め戻しトレンチを利用した墳丘に近づく園路
斜面上方側の墳丘攪乱部を埋め戻し、合掌形石室が見学できる園路

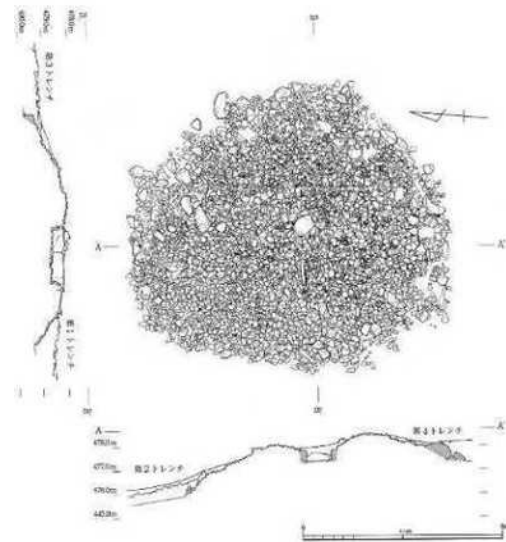


図1 大室155号墳 積石墳丘実測図



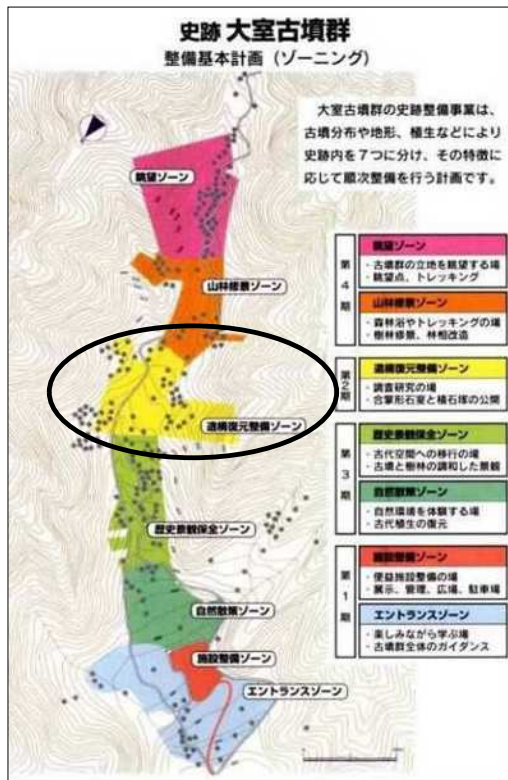
写真2 大室155号墳 全景

令和7年度 保存整備工事対象古墳



写真3 大室155号墳 合掌形石室

令和7年度 保存整備工事対象古墳

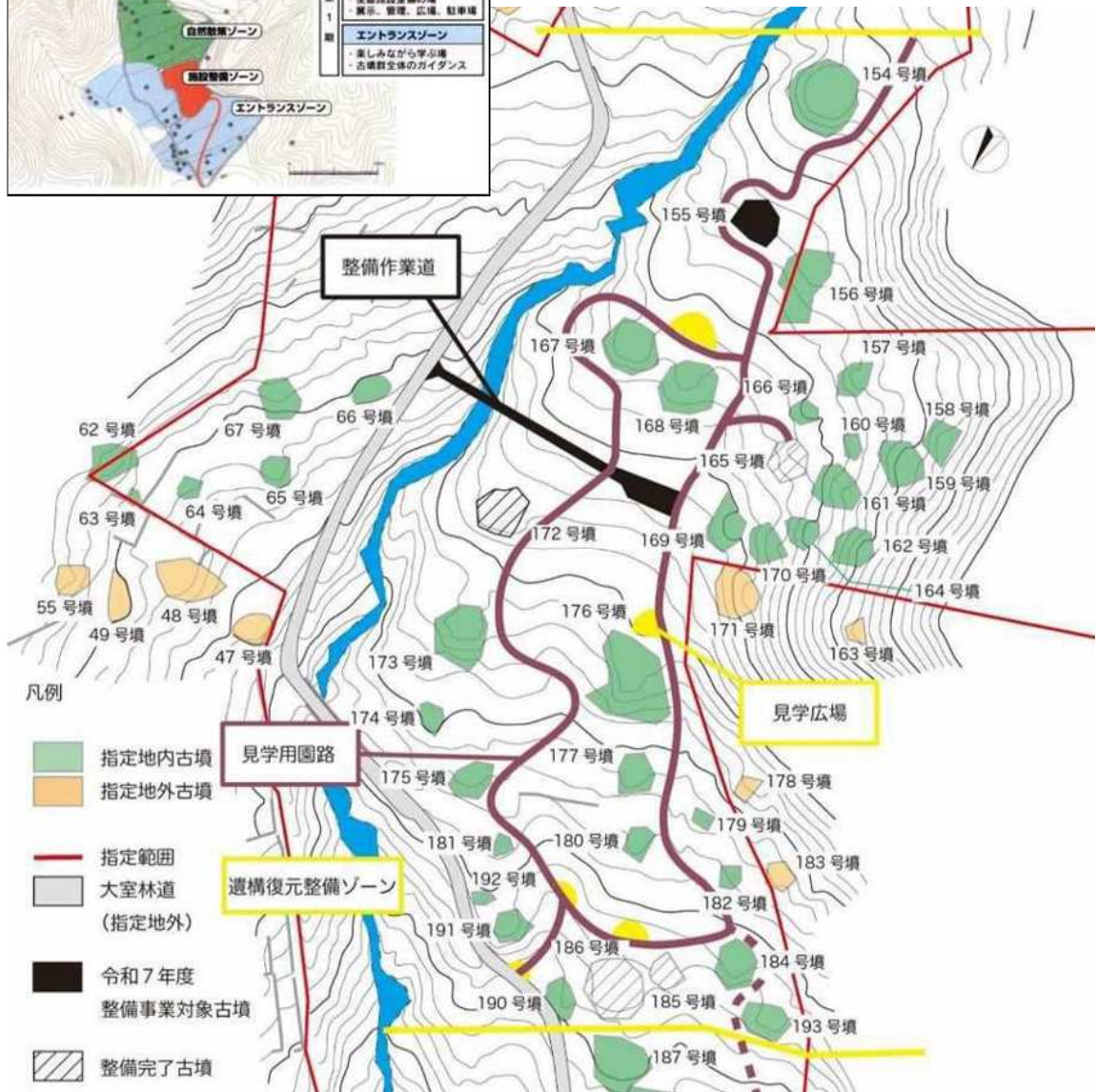


史跡大室古墳群整備基本計画ゾーニング図



エントランスゾーン

令和7年度事業実施位置図



現場見学会の様子（7月15日）



職人による天井紙張り作業を見学
（下氷鮑小3～6年生 約360人）